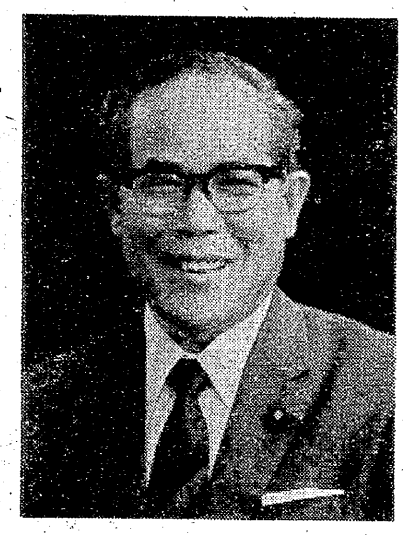
第1048号　第三種郵便物認可　みいけ　（毎月二回1日、16日）　昭和51年11月16日（火）　（二）

平和と民主主義のために

重大な総選挙に突入した。三池労組はすでに早く細谷治嘉（福岡県三区）・坂本恭一（熊本県一区）の両候補のすいせんをきめ、当選を期している。ロッキード疑獄がつきつけた保守の支配構造を粉砕して、平和と民主主義の強化のための奮闘こそ、最大の課題となった。



細谷治嘉候補。六十四歳。福岡県議会議員二期。社会党福岡県連書記長四期。大牟田市長二期。衆議院議員四期。現社会党中央本部地方政治局長。ロッキード汚職を徹底的に究明。

細谷治嘉候補

坂本恭一候補。四十歳。衆議院議員一期。また総評弁護団弁護士。現社会党刑法改正調査特別委員。同ロッキード疑獄事件調査特別委員。平和と民主主義の確立に向かって奮闘。

坂本恭一候補

主張

総選挙の課題と労働組合の任務

インフレ・不況とロッキード事件は選挙闘争とは関係がないように宣伝した。が、それは間違いである。

もちろん、革新側が敗北した事情からして、全体的な力量が不足していたことは否定できないが、それでも良識ある諸国民の反発と批判は、取り払うことはできない。

問題は、このような事件に対する三木自民党政府の態度についてである。思いだしてみると、昭和四十八年十月以降、田中角栄前首相が提唱した日本列島改造論に端を発した狂乱物価に対する国民の失望と怒り。これにとってかわった、クリーン三木首相の登場。

国民の非難をおさえるために物価抑制を行う、というねらいであったが、昨年の物価上昇も一〇・四%にのぼり、さらに本年は一般予算としても総額二十四兆二千九百六十億円と、前年度より三割多い予算を組み、インフレの促進としては次の点を意志統一し、全力をつくして選挙闘争をとりくんでいくべきである。

第一に、客観的には、自民党内における対立激化にみられるように、資本主義体制のゆきづまりがある。

そのため、総評が提唱してきた国民春闘の継承として、国民の生命とくらしを守る諸政策要求を、労働組合が中心となって闘っていく延長のうえに、選挙闘争を位置づけ、闘いをすすめていくこと。

第二は、ロッキード事件が見せつけたように、国家機関を私物化しようとする独占資本の横暴をうちくだき、議会制民主主義を確立することである。

×

とくに、治安維持法にかわる刑法改悪、教組にかけられている主任制度と教育の反動化、さらに、自民党の永久政権をねらっている小選挙区制を絶対阻止しなければならない。

第三は、三池闘争およびCO闘争の経験をふまえながら、職場・地域での闘争を積極化し、階級的団結をかちとり、国民諸階層の不平や不満を組織して、その先頭に立って闘うこと。すなわち、国民統一戦線の土台をこそ、今次選挙闘争のなかでつくりだしていく。そのとき、今後の展望を自らのものにすることができる。平和と民主主義・生活権を確立するため、すべての人たちに呼びかけよう。

×

筆者は、社青同全国協議会福岡地区本部（福岡市中央区西中洲十一の一、浦ビル）委員長。

なお、上の写真は、緊張の全国協の全員集会。

おわび

本紙の今号では、社会党CO闘争を支援する会の集会、小島裁判担当弁護士の抗議集会でのあいさつほか、貴重な記事投稿をお伝えできませんでした。次号に掲載することを誓い、おわび致します。

―編集部

自からの解放めざす

三池で学んだ教訓に確信が

まなぶ集会

三池大災害抗議集会に日程を合わせながら、四日間にわたって開かれた第十三回三池にまなぶ全国集会は、総選挙を目前にする情勢のなかで、独占資本からの労働者自からの解放のための闘いを強めることを固く決意して終わった。

三池にまなぶ集会は、例年の通りまなぶ全国協議会の手で組織されたるまで、全国四十三都道府県から二百七十九人の青年労働者が結集した。（なかには、四十歳を越えた人もいた）

集会を終え、闘いを誓つて解散した。

年を重ねていくにつれ、参加者はほとんど組合や職場の活動家にしぼられてきて、はじめのころ見られた「どう闘うか」ということから一歩発展して、「闘いのなかでぶつかる苦しみや悩みをどう克服するか」という視点から交流を求めるようになってきた。

三百数十回におよぶ組合員・主婦会員との真剣な交流に、一人ひとりの決意のほどが示されていた。七日からはじまった日程は、十日の総括集会（労働会館）をもって終わり全国集会は成功した。（別項アピールから）全参加者の決意はそのままアピールに刻まれている。三池もまた、彼らにこたえるための努力をおしんではならないことを、深く思わせる。

三池からのアピール

三池労組のみなさん。三池主婦会のみなさん。ありがとうございました。心から感謝します。

三池闘争の中から生まれた「まなぶ」。三池大災害とともにはじまった「三池にまなぶ会」にとって、今年はとくに意義深いものでした。それは今年が、三池労組三十周年にあたり、三池大災害十三周年抗議集会に参加することができたからです。

私たちは数多くのことをまなぶことができました。しかしなによりも大切なことは、労働者にとって「団結こそがすべてだ」ということでした。

三池の労働者も長い闘争と学習の中でつくりあげてきたことを知りました。三池労組の力は、一日でできあがったのではないということでした。

労働組合運動や社会主義運動は人間をつくるものである、という尊い教訓をまなぶことができました。三池の労働者は、静かに、しかし確信をもっていいます「仲間を裏切ることはできません」。

目前に総選挙がひかえています。土台が腐りかけた独占資本も自ら倒れることは絶対にありません。「労働者階級の解放は、労働者自身の闘いによって獲得されなければならない」（マルクス）のです。

この仕事は、自分たちでやる以外にないのです。

三池から、私たちはこのことを全国に訴え、それを実行することを誓います。

×

以上は、紙数の関係からやむなく抜すいしてお伝えしました。

御礼

こんどの抗議集会（一面記事参照のこと）には、社・共両党代表をはじめとする約十五にのぼる民主団体に個人が参加、しかも三池にまなぶ集会参加者をはじめ、各方面から多額のカンパなどもいただきました。ここにそのことを記して、感謝の意を表させていただきます。

―

起ちあがれ青年 燃やせ労働者魂

福岡　松石誠三

三池炭鉱労働組合の組合員の皆さん、主婦会員の皆さん。

私たち社青同は、九月に第四回全国総会を開催し、労働運動の再生をめざして職場から労働運動の再構築を行って行くことを決意しました。

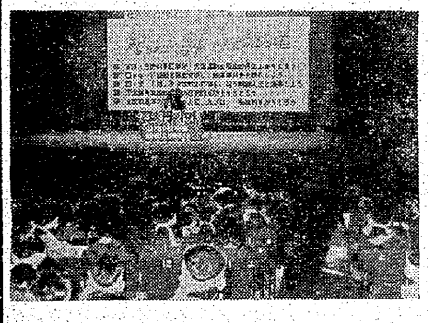
私たち社青同全国協は、職場での闘いを再構築するにあたり、あの輝かしい「三百十三日」にも及ぶストライキを闘った三池労組に職場での闘いを学びに行くことを決定し、交流会はただたんに〝三池労組に学ぶ〟のではなく、自分たちのこれまでの闘い、社青同分裂以後五年間の闘いをもって参加することを意志統一しました。

私たちは、現在まで、自立した青年政治同盟として、いかなる組織・団体にも援助を受けない、いかなる組織・団体からも自立をした青年同盟としての活動を追求してきました。

私たちは、これまであらゆる運動を自力で創ってきました。財政についても同様です。活動に必要な金は、物販、アルバイト等を行い、財政づくりを一つの運動として追求してきました。

今回の交流会においても、限られた財政の中で、しかも交流会を通じて、三池労組の皆さんに全国協の自立をした運動を理解してもらうということで自炊をし、毛布を持ち込んで交流会にのぞみました。と同時に、今回の運動を通じて私たちは、組織への集中性をかちとることができました。

交流会を通じて、多くのことを学び獲得することができました。私たち社青同全国協は、交流会で吸収した三池の火を、あらゆる職場で、あらゆる地域で大きな炎へと拡げていくことをお約束します。



×

筆者は、社青同全国協議会福岡地区本部（福岡市中央区西中洲十一の一、浦ビル）委員長。

なお、上の写真は、緊張の全国協の全員集会。

おわび

本紙の今号では、社会党CO闘争を支援する会の集会、小島裁判担当弁護士の抗議集会でのあいさつほか、貴重な記事投稿をお伝えできませんでした。次号に掲載することを誓い、おわび致します。

―編集部